

ローカルジャーナリスト養成講座

ヒトカラニユース

VOL,3



ビジョンを語る
フェアであれ
誠実であれ

「地域のオモシロイ」
を
みんなで発信!

ローカルジャーナリスト として

第3回のゲストは山口県でローカルジャーナリストとして活躍する重原沙登子さん。「ローカルジャーナリストとして大切なこと」を学んだ。

まずは、自分自身がどうありたいか、またどんな地域にしたいかという「ビジョンを語る」こと。ビジョンが曖昧だと内容もあやふやになってしまふ。次に、決めつけることがないように「フェア」でなくてはならない。最後に、きれいごととして書かないこと。つまり「誠実」であることが大切である。これらを大切に、事実に基づくこと、またビジョンを持って発信するローカルジャーナリストが増えることが、社会をよりよくする。



最も伝えたいことは

書き始める前に考えることは全体の構成。まず、最も伝えたいこと(主題)を決める。取材で手に入れた情報から一つに絞るのは難しいけれど、ここが一番悩むべき段階。

主題が決まれば、あとはどう活かすか。ストーリーを作り、補足を付け足していく。

原稿を読んでみる

原稿が書けたら一度フラットな気持ちで読み、おかしいところがないか確認する。

「伝わる」記事に大切なのは読みやすさ。5W1Hが記述されているか、主語と述語は明確か、起承転結か、など確認すべき点は多岐にわたる。

また、客観的事実に基づいているかの確認も忘れてはいけない。書き手の「解釈」を混在させてはいけない。

参加者の声

ジャーナリストとは何か、また必要なモノを知ることが出来て、とてもよかった。

ビジョンをしつかりと考える必要があると改めて感じさせられた。